

セルフウォークリレー



勝浦ゼミナールII
経済学部経済学科 4年
近藤彩水 溝渕琴

◎リレー・フォー・ライフ (RFL) について

がん経験者に寄り添い歩く、リレー・フォー・ライフ (RFL) セルフウォークリレー。RFLは、がん征圧とがん患者支援を目的としたチャリティ活動。アメリカのクラット医師が「がん患者は24時間、がん向き合っている」という想いを共有し支援するため、24時間走って募金活動をしたことから始まった。彼の一步が「リレー・フォー・ライフ」へと繋がり、世界中に広がっていった。集まった寄付は、がんの新しい治療法や新薬開発、若手医師の育成、がんに関する相談事業、検診受診率向上の推進活動に役立てられている。

◎使命

使命：“Save Lives”

直訳すると「命を救う」だが、単に医療行為によって救命を行うという意味ではない。医療に従事していなくても、RFLに参加し寄付金を募ることで医療の進歩に貢献し、間接的に人の命を救うことができる。

そして、生きる希望を失った人の支えになることもまた、命を救うことである。

RFLにおける“Save Lives”のもうひとつの意味、それは「人の魂を救う」ことである。



◎セルフウォークリレーの仕組み

セルフウォークリレーとは、新型コロナウイルス感染拡大を考慮し、2020年からスタートした新しい形のRFL。

チャリティーウォーキング専用のアプリ「minpo」を用いて歩数を計測。

自分だけでなく、一緒に参加している仲間の歩数やランキングも確認できる。

参加者は参加費を寄付し、期間内に少しでも多く歩く。

歩数に応じて企業がマッチング寄付（参加者の歩数に応じた寄付）をし、寄付されたお金はがん患者支援に活用される。

目安として、65,000歩が1件の電話相談費用に充当する。



◎エンピティテーブル

ルミナリエセレモニーの中で行われる象徴なセレモニー。

小さなテーブルは尊厳と名誉の象徴。

がん宣告された人たち、ルミナリエ（亡くなられた方へのメッセージや病と向き合っている方への励ましが書かれたもの）の灯を捧げた大切な人たちの席。

白いテーブルクロスや皿の上の一切れのレモン、ふせられたグラスなど、全てに意味がある。

◎参加費

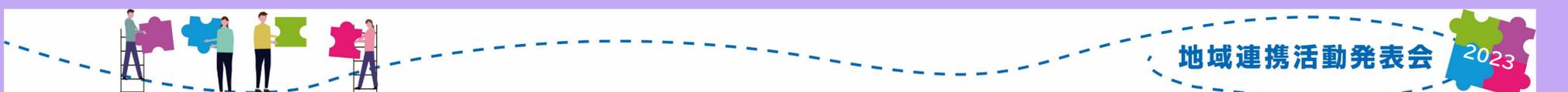
一般：1,000円

高校生以下：無料

がんサバイバー：無料

◎特別協賛

三菱UFJ銀行、住友生命、中外製薬、SANOFI、ECC、武田薬品工業株式会社、小野薬品工業株式会社、POLA、Daiichi-Sankyo、Gold Anchor、JCR、大樹生命、BECKMAN COULTER、Bristol Myers Squibb、熊谷組 等...





◎勝浦ゼミ生の取り組み

・薬学部と合同でRFLでのイベント企画 フォトラリーグループで川越の魅力、知らない一面を発見しながら楽しんで歩き、歩数を増やす。

・チラシ作成

RFLとセルフウォークリレーそれぞれのチラシを作成し、高校生を中心に宣伝活動に取り組んだ。

◎昨年の記録

開催期間：2023年9月1日～2023年9月30日

開催場所：オンライン（全国どこからでも）

参加者数：140人（全体） 24人（勝浦ゼミ生）

歩数：28,716,092歩（全体）

4,451,860歩（勝浦ゼミ生）

◎ランキング（勝浦ゼミ生のみ）

2023年

1位 412,304歩（13,743.4歩/日）

2位 382,877歩（12,762.5歩/日）

3位 315,885歩（10,529.5歩/日）

4位 291,256歩（9,708.5歩/日）

5位 288,362歩（9,612.0歩/日）

6位 280,727歩（9,357.5歩/日）



◎取り組んでみての感想・学び

・薬学部の方々と関わることができる良い機会になった。

・川越の町並みを楽しみながら、たくさん歩くことができた。

・開会式に参加したことで、がんに対する意識が高まった。

